

令和6年1月31日

加西市議会議長 丸岡弘満 様

清流会・かさいを育む会
幹事長 森元 清蔵

調査研究報告書

下記のとおり行政視察研修を行いましたので、報告いたします。

記

1. 調査年月日 令和5年12月26日(火)
2. 視察先 岡山県奈義町
3. 出席者 佐伯欣子・森田博美・森元清蔵・下江一将・橋本真由美・深田照明
4. 視察内容等
 - ◇奈義町 12月26日(火) 13:30~15:30
 - (視察項目) 子育て応援について
 - (視察対応者) こども・長寿課 副参事 小坂
 - (視察内容) 別紙1
5. 所感 (別紙2)
6. 添付資料
 - ① 視察行程表
 - ② 研修資料
 - ③ 写真

視察内容等 (別紙1)

奈義町(岡山県)

【 視察項目 】 子育て応援について

【 目的 】 合計特殊出生率が 2.95 という奈義町の子育ての取り組みを学ぶ

【 内容 】

1.子育て支援の歴史	出生数	合計特殊出生率
平成 14 年 合併についての住民投票で「単独町制」を決定 面積 69.52 km ² 人口 5,751 人 2,533 世帯 (2023.3.1 現在)	54 人	1.83
平成 19 年 なぎチャイルドホーム開設	45 人	1.59
平成 24 年 子育て応援宣言、不育治療助成事業開始	52 人	2.11
平成 26 年 奨学育英金開始	60 人	2.81
平成 28 年 在宅育児支援金交付事業開始	43 人	1.84
平成 29 年 しごとコンビニ事業開始	56 人	2.37
令和元年 合計特殊出生率 2.95	55 人	2.95
令和 2 年 子育て家庭食育支援事業開始		

2. 少子化対策の意義

少子化は子育て世代だけの問題ではない。だからこそ、課題を住民と一緒に考える。子どもが減り、若者や子育て世代が減少してしまうと、今ある商店やスーパー、病院など生活に必要な施設や機能、サービスを維持することは難しくなる。少子化による人口減少は、この町に住むすべての人に関係する最大の課題といえます。少子化対策は、最大の高齢者福祉。

3. 町が少子化対策として取り組むべき施策

- ①妊娠・出産、子育てまで切れ目のない経済支援
- ②出産、子育て等に係るメンタル的支援。子育てにやさしい地域づくり、機運醸成
- ③地域課題（住む、働く）の解決

4. 奈義町の子育て支援施策

①切れ目のない経済支援

- ・小中学校の給食費を半額に・教材費の無料、高校生までの医療費無料、高校生の就学支援（年額 24 万円）、在宅育児保護者に毎月 1.5 万円、大学生の奨学育英金、

②メンタル的支援・機運醸成

- ・産前産後のケア…メールによる情報発信、保健師の新生児全戸訪問、産後ヘルパー
- ・なぎチャイルドホーム…子育て世代の交流の場。無料。延べ利用者 11,600 人（令和 4 年）
子育てアドバイザーの常駐、一時保育、保護者同士の自主保育、
子どもの第 3 の居場所
- ・子育て応援宣言の発表…平成 24 年 4 月 1 日
行政が町民へ約束の宣言をすることで、町民へ安心感、心強さを与える。

③地域課題の解決

- ・しごとコンビニ事業（奈義しごとえん）2017年4月より

- 目的 ①子育てしながらでも、就労できる仕組みや環境を整備する。
②シニア世代が少しでも働くことができるようにする。
③一つの仕事をみんなでワークシェアすることで総活躍のまちをつくる。
④町の中にある仕事の受け皿をつくる。
⑤仕事を任せる側の、業務の効率化を図る。

対象……子育て中の母親、子どもの保護者、シニア世代

実施主体……一般社団法人しごとえん

働き手登録者……約280人(子育てママとシニア世代が半々)

仕事件数……年間970件

町の補助……1,500万円(運営補助金)

- ・企業誘致……産業団地開発 平成4年完成 16社立地 約800名の就労

- ・賃貸住宅の整備……H23～H27 戸数81戸

- ・分譲住宅の整備……町が分譲地整備(87区画完売)

民間分譲地整備補助

5. 高い合計特殊出生率の鍵は「安心感」

- ・住むところがあって安心
- ・働くことができて安心
- ・子育ての負担が軽くなって安心
- ・子育ての悩みや喜びが共有できて安心
- ・町のみんなが子育てを応援してくれて安心

令和元年 合計特殊出生率「2.95」を記録

奈義町の子育て所帯は半数以上が、子ども3人以上の多子世帯

所感 (別紙2)

【所感】

森元清蔵

奈義町の合計特殊出生率の高さは、出生数が50人台を維持し続けてきたことの結果ということでした。子育て所帯の半数以上が、子どもが3人以上いるようです。それだけ子どもを生みやすく、育てやすい環境にあるといえます。長年の町の少子化対策の取り組みの成果です。

経済的支援においては、保育料、給食費、医療費の負担減や、就学支援施策だけでなく、子育ての保護者が「しごとえん」で、空いた時間にちょっとだけ働くことができる仕組みをつくっているのが素晴らしい。子育てしながら自分の自由な時間を使って仕事ができるような、子育て世代用の人材センターを加西市も手がけるべきと思う。

メンタル支援においては、「奈義チャイルドホーム」の取り組みが素晴らしい。旧保育所を改装して、子育て世代が気軽に通える施設として解放されている。子育てアドバイザーが常駐していて、育児相談もされている。ボランティアスタッフもいて、「子育てサポート」制度や自主保育もされている。気軽に立ち寄れて、親子でくつろげて、子育ての悩みがいつでも相談できる子育て支援施設が加西市にも必要である。

行政が市民への約束として「子育て応援宣言」をし、町民みんなで子育てに協力し合っている感じがしました。若い人たちの声を行政がよく把握し、課題を一つ一つ解消されてきている結果だと思います。こうした取り組み姿勢も学ぶところが多くありました。

【所感】

佐伯欣子

◆少子化対策は最大の高齢者福祉◆

奈義町は、令和元年、合計特殊出生率2.95を達成され、全国トップクラスとなりました。歴史的に言えば、平成の大合併で、合併しないことを選択され、小さい町だからこそできるきめ細やかなまちづくりに努められてきました。継続は力なりの結果だと感心しました。

子どもから高齢者まで住みよい、やさしさと思いやりにあふれるまちを目指し、子育て・医療・福祉などのライフステージに合わせたサービスの充実を進められています。

その一つ、奈義町子育て等支援施設「なぎチャイルドホーム」。

一日だけの視察でしたが、保育園を改築された広々とした敷地と施設内に、冬季期間、制服や子ども用品等常設のバザー品が置かれ、誰でも見ることができます。

子どもと大人が世代を越えて、交流でき、お互いに心を通わせ育ち合える集いの場所であり、津山圏域定住自立圏共生ビジョンの取り組みにより、津山市の子育て支援拠点事業施設も利用ができます。

加西市も、子育て施策は5つの無償化を行っておりますが、少子化対策と高齢者福祉は別々の施策と考えるのではなく、繋がっているものであり、市や市民、住民の幸せと発展のためには、各世代のお互いの理解や未来に向けて取り組まなければならないことを共有していく方向で進めていくべきだと強く考えます。

【岡山県奈義町】子育て支援について

課題としては津山市などに転出があることや婚姻数が減っていることも考えられるが、奈義町では特に“今いる子育て世帯を支援すること”に注力されていると説明があった。高校生まで医療費無料や小中学校の教育教材費を無料、在宅育児をする保護者に毎月 15,000 円の支援金など手厚い経済的な支援が見受けられた。担当者からは「お金の支援は財源があればできる。さらには子供を生んでも育てていける認識を育む必要がある。」と説明があり、感銘を受けた。奈義町ではメンタル的な支援として子育て世代が気軽に通える施設“なぎチャイルドホーム”を運営している。親同士で協力する保育活動や一時預かりなど町民同士で支えあう子育てサポート制度が用意されている。本市においても子育て5つの無料化を例として子育て支援は充実していると感じているが、加西市で子供を育てていけるという住民意識の醸成をさらにはかっていく必要があると考える。

以前から注目をしてきた「子育て世代のちょっとだけ働きたい」の要望にこたえる“しごとコンビニ事業”は登録者が 300 人を超え、地域の働き手確保にも繋がっていた。企業や役場、個人からも仕事を請け負っている。町からは 1,500 万円の事務費が出ており、委託料からは登録者に報酬を支払って差し引きゼロになるのが現状である。このワークシェアリングの仕組みについては本市においても必要な声を聞いているので、実現に向けて提案していくことを考えている。

【所感】

橋本真由美

「岡山県 奈義町」 少子化対策

3村合併により「奈義町」が誕生。中心部から半径2[＊]に人口の8割が定住しているコンパクトシティ。人口は5751人（2023.3.1現在）

子育て関連施設としては、保育園1園、幼稚園2園、小学校1校、中学校1校、子育て支援施設（チャイルドホーム）。大きな病院はなく、奈義町には診療所が2か所、病児保育の充実したファミリークリニックが1つある。

人口の推移シミュレーションでは、2050年には5000人をきる推移となっている。奈義町は近くには大きな津山市があるため、基本は人が出ていってしまう自治体で、大学となると若者は出ていってしまう、そして大学を卒業し就職したら、戻ってきてはくれない。しかしなぜ子育てで世代への支援をしっかりと考えているのかというと、結婚や出産のタイミングで、奈義町で子育てしたいと思ってくれる方々に、帰ってきて子育てしやすいように用意しておいておきたいとの気持ちでされていて本当に素晴らしい取り組みだと思った。

町長が人口減少を町の基礎を揺るがす深刻な問題ととらえ、少子化対策は子育て世代だけの問題だけではない。だからこそ課題を住民と一緒に考える。という言葉通り未来を繋げるためにチャレンジすることをしっかりと考えておられるので子育て世代が増えているのだと思いました。

有効な少子化対策は何かをしっかりとらえ、妊娠出産子育てまで切れ目のない経済的支援。出産子育て等に係るメンタル的支援、子育てにやさしい地域づくり機運醸成。奈義町が抱える地域課題の解決、この取り組むべき施策をとしてあげられている。奈義町は多子世帯が多く奈義町で実際に子育てされているママたちも、周りが子どもが3人いる世帯も多く自分も3人目、と、いきやすいとも言われていた。

子育て支援施策は、保育料が国の基準の半額、第二子はその半額、第三子は無料。小中学校の給食の半額は町で負担。小中学校の教材費を無料化。高校までの医療費無料。大学生に町独自の奨学育英金、卒業後に町への定住で全額返済免除。予防接種も助成。中学校3年生までの片親世帯年額5万4千円を支給、第二子以降は一人2万7千円加算。高校生への就学支援として年額240000円の支援金。在宅育児をする保護者に毎月15000円の支援金。特定不妊治療を受けた方に県の助成を引いた額の1/2以内で年額20万を助成。

色々されているが、とても子育て世代として良い施策だと思ったのが、在宅育児をする保護者に毎月15000円の支援金、これに関しては条件もなく保育園に預けてさえいなければ受け取れるというもの。これは保育園に預ける方も減り、待機児童の解消や、園に預けないという事は人件費の削減にもなるという事でした。出来るだけ預けずに自分で子育てしたいと思う方には本当に良い支援金だと思った。

次に大きな魅力と感じた、なぎチャイルドホームで、ここは子育てママがそして、子ども達が、高齢者や地域の方々が支え合い、子育てのしやすい環境作りに本当にいい場所でした。年齢により遊び方も違う為、分けてあり部屋も広くおもちゃも年齢に応じたものが置いてあったり、子育ての相談がしやすいように、子育ての大先輩から、子育て中のママ達も相談になれるような仕組みが本当にいいと思いました。ここでは、制服や捨てるにはもったいない子育てでの必需品なども安く置いてあり、服やベビーカーなどもあり子育て世帯には助かるものがたくさんありました！みんなで子育てをする！というような雰囲気があり、だからこそ子どもを多く産める環境だと感じました。

【岡山県奈義町】 「町全体で子どもを育てる」という少子化対策

岡山県奈義町は昭和30年2月に勝田郡の北吉野村・豊田村・豊並村の3村合併により誕生した岡山県北東部の人口5,751人(令和5年3月現在)の小さな町で、平成14年の全国的な合併がすすめられた時、津山市や美作市との合併も考えられたようですが、住民アンケートで70%の方が合併しないを選択し、自分たちの町は自分たちで守りたい、そのためにも子供たちをしっかりと増やしていくという決意を新たに、様々な子育て施策を展開されてきています。

そして平成24年、奈義町子育て応援宣言を制定し、子どもたちは次代を担うかけがえのない存在で奈義町を守り支えてこられたお年寄りとともに、奈義町の大切な宝物として子育て支援にいつそう力を入れ、「子供たちの元気な声と笑顔が溢れ、子育てに喜びを実感できる町」「家庭・地域・学校・行政みんなが手を携え地域全体で子育てを支えるまち」を目指すと全国に表明されました。この宣言のもと、子育て支援の取り組みをより強化して、令和元年の合計特殊出生率が日本トップクラスの2.95になり、全国的にも大きな注目を浴びる町になっています。

この出生率を高く維持する具体的な施策は高校生までの医療費無料、小中学校の給食費と保育料の半額補助、在宅で育児をされる保護者に毎月15,000円の支援金、子供たちの居場所である「なぎチャイルドホーム」の開設、しごとコンビニ事業、定住移住促進のための住宅建設補助など多くの施策がありますが、もともとの奈義町設立時の子ども達をしっかりと増やしていくという理念が代々受け継がれていることが最大の要因と感じました。実際、職員の方の多くの家庭で親世代も自分たちも兄弟姉妹は3人以上、そして子ども達も3人以上いるのが当たり前、そして三世同居が多く、家族全員で子ども達の成長を楽しんでいる環境にあるとの話に、加西市の核家族化がすすんでいる状況とは基本的に違うので、とてもうらやましく思いました。

また、地域の高齢者の方が「なぎチャイルドホーム」などで子ども達の一時預かりサポートをされたり、ママさん達の子育て相談にのる体制が自然とできているということも、地域コミュニティがしっかりと機能しているからと感じました。そして、アットホームなチャイルドホームの運営は学校へ行きづらい子供たちの居場所づくりとしての成果も大きく、やはり、子育てしやすい町として移住される方が増加傾向にあるというのも町の皆さまの子育て意識の高さにあると納得しました。

加西市は子育て施策として、医療費、給食費、保育料の無料化などに取り組んでいますが、地域コミュニティ力の低下で人間関係が疎遠になり、地域の高齢者・住民の皆さまと子ども達がふれあう機会が減ってきているので、人口維持のためにも奈義町のように子ども達を市民全員で見守り、子育て世代を支え協力していく意識のより向上を図っていくことが、今後の加西市施策の中でも特に重要な取り組みとなると考えます。

奈義町には、11月に開催された全国子育て応援会議に参加して2度目の訪問となった。視察の申し入れをお願いする打合せの中で、応援会議への参加を呼びかけられたのが最初の訪問。子育て支援の町である奈義町に、子ども家庭庁、自治体、有識者、企業、奈義町町民らが一堂に集まり、これからの子育て応援に関して情報提供や課題発見など熱心な意見が出された。何より驚いたのが、加西市議会の傍聴等、熱心に活動されている女性の加西市民と会場で出会い、我々6名の議員と一緒に子ども政策を学ぶことができた。基調講演の子ども家庭庁の高橋審議官からの、こども未来戦略方針を中心とした課題と展望は参考になった。

今回の視察は、奈義町のこども長寿課の担当から、約20年となる子育ての取り組みを聞いた。2019年度合計特殊出生率2.95を記録し、岸田首相が奈義町を視察するなど『子育て応援の町』として注目を集めているが、『総理大臣が奈義町の取り組みを視察』が町広報紙の号外として配布されている。

平成14年、合併の意思を問う住民投票を行い「単独町政」を選んだ。それ以降、一貫した歳出削減と見直しを行い、20年かけて子育て支援施策を拡充してきたと説明を受けた。少子化対策は子育て世代だけの問題ではなく課題を一緒に考えようと、住民と一緒に考える、一緒に話し合う中で町を存続維持するための重要性を共有し、少子化対策は最大の高齢者福祉と認識されている。

子育て支援の年表を見ても驚く。平成16年からすごい内容の施策を展開し、特になぎチャイルドホーム開設、しごとコンビニ事業、その間支援事業を拡充しながら、令和5年には『こどもまんなか応援サポーター宣言』をされている。平成24年、議員提案による子育て応援宣言も住民へ行政が約束する宣言として効果が大きかったとの説明である。

担当者からの説明そして質疑応答と予定時間を超えたが、『なぎチャイルドホーム』の現地視察をおこない、創意工夫された事業内容と運営等、すべて地域ぐるみで子どもの成長を支える『まちづくり』が実践されていると実感した。

11月の全国子育て応援会議や今回の視察で、未来につながる子育て応援の気づきを得た思いである。

添付資料

①視察行程表

清流会・かさいを育む会
行政視察行程表

12月26日(火)

10:30 加西市役所 発

↓

(昼食)

↓

13:20 奈義町役場 着

13:30~15:30

奈義町視察「子育て応援について」

※当日は、議員の自家用車で往復

②研修資料

③写真

